

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>【1学年】 本学年の課題として、文章から情報を正確に読み取る力と基礎学力（主に漢字、語彙）の向上の2点が挙げられる。 読解能力に関しては、正確に情報を読み取れないために、定期考査での誤答が多い。 漢字や語彙などの基礎学力に関しては、漢字を書く機会の減少により、定着していない生徒が多い。</p> <p>【2学年】 本学年の課題として〈思考・判断・表現〉に関わる書く能力の定着が挙げられる。 前年度、書く学習活動を積極的に行えなかった影響か、自分の考えを文字に起こすということに抵抗がある生徒が多い。考えを発言によって発表することが得意な生徒は多いため、その考えを整理して文字として書き起こす能力の向上を図る必要がある。</p> <p>【3学年】 「知識」の問題で、全国平均に0.1ポイント小さく、一部に漢字や文法などの基礎が十分に身につけていない生徒がいる。 また、毎時間授業の振り返りの際、自分が授業で何を学んで何ができるようになったのかが理解できていない。何ができるようになったのかを自覚させる手立てが必要となる。</p>	<p>【1学年】 読解能力の向上として、発問の工夫を行う。より正確な情報を読み取り、答えに近づけるよう、段階を踏んだ発問を行う。また、接続語や指示語の読み取り練習を行う。 また、基礎学力の向上のため、授業開始時に5分間の漢字学習を行う。2時間に1度5点満点の小テストを行い、生徒の理解度を定期的に確認する。</p> <p>【2学年】 前年度の「書く学習活動が積極的に行えなかった」という反省を踏まえ、生徒が自ら考えて書く学習活動を多く取り入れる。大きな柱として、定期考査に1000字程度の筆記問題を導入する。また、授業内でも1000字程度の要約を行う活動を取り入れる。 また、授業後に本時の学習を文章でまとめる振り返りの時間を取り、学習を整理する能力を養う。</p> <p>【3学年】 授業の初めと終わりに本時の目当ての確認と一時間のまとめを行う。 ・1時間毎に1回練習、1回テストの形で授業の開始の計6～8分を漢字のテストと新出漢字確認の時間とする。単元の途中で、常に現在の学習が単元全体の学習の中のどの位地にあるのかを確認して学習の全体像を把握させる。 ・単元のまとめでは文章の主題に触れる発問で定着を図り、類似の学習材との比較を通じてさらに視野を広げ理解を深めるために指導する。</p>	
社会	<p>【1学年】 授業での様子、テスト結果を見ると、既に学習の習慣を身に付けて、基礎学力がある生徒と、そうでない生徒の差がある。 学習への興味関心が高く、基礎学力がある生徒も、資料を活用し、思考・判断・表現する学習はふやす必要がある。</p>	<p>【1学年】 毎時間、学習のねらいをワークシートに記入させている。地図、グラフ、写真、統計資料等を活用すること、ワークシート等記入による作業学習を増やしている。学習に取り組むことが困難な生徒もいるので、1学期は机間巡視を多くして、把握し、援助を増やした。</p>	

<p>社会</p>	<p>【2学年】</p> <p>①学習意欲 規律をもちつつ、意欲的に取り組み、発言や作業などに積極的に取り組む。学習への配慮を要する生徒への個別対応が課題である。</p> <p>②思考したことを表現する 毎時間の「学習のふりかえり」や発言、「単元のまとめ課題」、3～4人の「社会科グループ」での問題解決学習や学び合いの時間を通して、表現することに抵抗感の少ない生徒が多い。口語体で表現する生徒が多い。</p> <p>③知識の定着 知識の定着度を測る授業内テストでは、定着している生徒と不十分な生徒の差が大きい。</p> <p>【3学年】</p> <p>規則的な指名で行う質問に対して、適切に答え、表現できる生徒が多い。また、自分と異なる考え、意見に対する関心も高く、他者の意見によく傾聴できる。一方で、挙手し、積極的に発言する生徒が少なくっており、議論の活性化には課題がある。</p>	<p>【2学年】</p> <p>①配慮を要する生徒への対応 個別への指示の出し方、ワークシートへの作業の指示の出し方を工夫する。導入部での活動や復習を慢性化させず、授業への導入の契機として引き続き設定する。</p> <p>②話し合いとまとめ活動、教科間連携 知識の定着や学習内容への関心などが結びつく。3～4人の「社会科グループ」での問題解決学習や学び合いの時間を設定し、話し合いにふさわしい学習課題と活動を工夫する。今後は文語体で書くことや文の書き方など、国語科との連携を図りながら指導したい。</p> <p>③授業内での確認、帯活動の工夫 導入部で前時の復習を適宜取り入れ、誰もが答えられる復習を行う。自信をもたせる。ワークブックを定期的に活用する。</p> <p>【3学年】</p> <p>導入における規則的な指名による復習の継続によって、発言へのハードルが下がるようにする。また、自然と意見が出やすくなる少人数グループでの活動場面をより細やかに設定することで、議論の活性化を促す。</p>	
<p>数学</p>	<p>【授業の実態】</p> <p>各学年とも授業規律が保たれており、落ち着いた環境で学習できている。生徒自身がわからない問題に直面した際は、自然と近くの生徒に相談し、互いに教え合う環境ができている。各学年で習熟度別少人数授業を行っており、コースごとに適切な指導ができている。</p> <p>【観点別の学習状況】</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」では、各学年レポート課題や、問題集等の課題に対する取り組みを評価している。取り組み方に差があったり、取り組みが学力向上に反映しなかったりしている。</p>	<p>【授業の実態】</p> <p>授業中に近くの生徒や教員に質問できない生徒が各クラスに数名ずついる。その生徒たちを教員が見逃さずにフォローをしていくことが重要であると考え。また、各習熟度別クラスにおいて、教科書をベースにしながらかラスの実態に応じた教材を準備していく必要がある。</p> <p>【観点別の学習状況】</p> <p>主体的に取り組むためには、どのように取り組めば良いのかわからない生徒に対して取り組み方の例示をすることが必要であると考え。また、主体的に学習に取り組む態度を養うために、数学の楽しさ、奥深さ、数学に関する身近な話題などを生徒に伝え、数学に興味を向くような働きかけが必要である。</p>	

理科	<p>【知識・技能】 定期テストの平均点を見ると、各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着している。しかし、既習事項が定着している生徒とそうでない生徒の差が目立つ。また、化学式の書き間違いや漢字ミスなどケアレスミスが目立つ。</p> <p>【思考・判断・表現】 観察・実験の結果と既習事項を関連づけて考察を行うなど、観察・実験結果を多角的・統合的に思考する力が十分ではない。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実験は主体的に行うものの、実験結果や考察など、思考力が必要な活動が入ると、学力の低い生徒は、真剣に取り組むことができず、課題を解決することをあきらめてしまう。また、試験勉強もワークを2～3周して臨むだけで、どうすれば理科の力が付くかを考えて学習方法を調整する生徒は少ない。</p>	<p>【知識・技能】 各章が終わるごとにICT機器を活用し章末テストを行う。また、家庭学習の時にもICT機器を活用し、章末テストの学習に取り組みせることで、演習の機会を増やすことで知識を身につける機会を多く設定し、生徒間での学力差を小さくする。ケアレスミスを減らすために、間違いやすいポイントを伝える。</p> <p>【思考・判断・表現】 基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等を関連付けて考察する学習活動をより一層充実させる。また、観察実験の結果を分析して解釈することに加え、習得した知識に基づき自ら進んで観察・実験の計画を立てるなどの化学的に探究する学習活動の充実も必要である。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実験結果や考察など思考力が必要な場面では、始める前にポイントを説明してある程度考えの道筋を作ることに努める。また、教え合いの活動を取り入れることで、机間指導で見切れない生徒も理解できるようにする。また、授業時に、理科の力を身に付けるためにどのような学習方法が最適なのかを定期的に伝える。</p>	
音楽	<p>【授業規律の徹底】 ○合唱練習時や音楽鑑賞の態度や姿勢など授業規律を守らせることにさらに力を入れる。</p> <p>【音楽の感受と表現】 ○音楽を多角的、主体的に感じ取り、表現しようとする。そして言葉で表現させることに課題がある。</p> <p>【歌唱における発声】 ○発声の原理を明確に理解させて、実践させる。</p>	<p>【適切な指示語】 ○意欲を高めるような指示のしかたの研究。</p> <p>【楽曲の研究と選択】 ○曲に対するイメージを広げるような解説や教材の研究</p> <p>【鑑賞教材の研究と選択】 ○あらゆる分野の「良い音楽・良い演奏」を聴かせて、生徒の歌唱や演奏に取り入れてレベルアップさせる。</p> <p>【感想や意見を伝え合う場】 ○パート練習、お互いに聴き合い話し合いながら、ハーモニー感覚を養わせる。</p>	

美術	<p><知識・技能>① 既存のイメージ、画像をそのまま利用する生徒が多く、対象から自分で感じ取り、表現を試行錯誤しようという姿勢が乏しい。</p> <p><思考・判断・表現>② 作業の流れや見通しを立て、計画的に作品を進めることが苦手な生徒が多い。 自分の作品に正解を求め「どう描けばいいか」「どうしたらいいか」という質問が目立つ。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度>③ 意欲や根気、技術力、発想力など個人差への対応。</p>	<p>○観察力・画力の向上と、自分なりの美しさ、面白さを見つける喜びを味わえるよう、スケッチやクロッキーの機会を増やす。その際、造形的な技術力・個性の両方の良さを評価する。 —①③</p> <p>○個々の進度や躓きに対応できるよう、また、「自分がどうしたいか」を顕在化させていくために課題内で前半はカウンセリング、後半はプレゼンテーションを全員に実施していく。 —②③</p> <p>○発想力・技術力の向上を計るために、課題の組み立てとワークシートを、よりスモールステップな構成にする。また、スモールステップにすることで自分の進度や成果・課題を明確にし、次に進みやすくする。 —①②③</p>	
保健体育	<p>●1年生 ・小学校までとは違い、礼儀や規律も学習であることにも慣れ、元気に挨拶我で着るようになってきた。まだ自ら進んで挨拶などの授業規律ができていない生徒もいる。 ・授業に対して積極的に参加できている生徒が多いが、運動能力等にもかなり差が見受けられる。 ・「知識・理解」について、関心がもちにくい。</p> <p>●2年生 ・基礎的な技能を理解し、実践しようとしている。また、意欲的に取り組んでいる生徒も多いが、授業規律がしっかりできていない生徒もいる。 ・成長段階の個人差もあり、技能に差が出てくる。運動の苦手な生徒は伸ばすことに気持ちが向きにくい。 ・「知識・理解」について、各単元の授業の目標をはっきり理解していない生徒が若干見うけられる。意見や発表が少ない生徒がいる。</p>	<p>●1年生 ・大きな声、号令、掛け声等を準備運動からしっかりさせていき、授業の始めに本授業の目標を明確にしていく。 ・個人を対象として指導を深めていく。また、仲間同士の教え合い、学び合いの場をもたせる。 ・授業で説明した内容について、プリントやICTの活用等でさらに充実していく。</p> <p>●2年生 ・個人を対象として指導を深め、他者に多く目を向ける。 ・学習カードやICT等を活用し、振り返りを活動時間に設ける。仲間と協力し、お互いの考えを参考にしながら学び合いを通して技術向上を図る。 ・授業で説明した内容について、プリントなどで更に補充していく。試験前にしっかり学習を行わせる。運動や健康について自他の課題を発見し、関心、探求心を育てる。</p>	

<p>保健体育</p>	<p>●3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生から男女共習授業となり、体格の違いはもちろん、運動能力の差はかなり大きいことや、思春期であることもあり、男女の意識もあり、一緒に取り組むことへの難しさがある。 ・授業を楽しんで取り組む生徒が多い。自己の力を伸ばすための知識を習得させ、今持てる力を理解させる。 ・基礎的な技能が定着し、さらに発展させて行うことができるようになってきている。力を伸ばすための自主的取り組みを身に付けさせる。 	<p>●3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの良さを見つけ合えるよう、男子の運動能力を見本とし、女子の丁寧かつ考察力など、学び合いの場を多くもたせる。 ・より高い目標に挑戦するために自分で計画を立てられるようにする。発展的な技能の定着のために、基礎的な運動の反復と発展的な実技の実践を行っていく。 ・振り返りの活動の中で、自分の考えやポイントを明確にし、他者に伝えるなどの発表な場面を多くもたせる。 	
<p>技術家庭</p>	<p>【技術分野】</p> <p>●1年生</p> <p>生徒により、理解の深度に差が出やすくなっている。技能の習得度にも差があるように見受けられる。</p> <p>●2年生</p> <p>学習内容が難しく、かつ、単元が多方面にわたるため、理解するのに相応の時間を要する。</p> <p>●3年生</p> <p>生徒個人個人の意欲によって、学習進度に差が出やすい学習内容となっている。</p>	<p>【技術分野】</p> <p>●1年生</p> <p>理解の進まない生徒や、作業の進まない生徒に対して、個別の指導を適宜行っていく。また授業や実習内容の PDF ファイルをクラスルームに掲載して家庭学習が充実するようにする。実習では毎時間、実習の感想や改善点の提出をさせて理解度を確認する。また、班での作業を重視し、学び合い活動を意図的に行わせる。希望のある場合には、放課後等の時間で実習時間を提供する。</p> <p>●2年生</p> <p>理解の進まない生徒や、作業の進まない生徒に対して、個別の指導を適宜行っていく。また授業や実習内容の PDF ファイルをクラスルームに掲載して家庭学習が充実するようにする。実習では毎時間、実習の感想や改善点の提出をさせて理解度を確認する。また、班での作業を重視し、学び合い活動を意図的に行わせる。希望のある場合には、放課後等の時間で実習時間を提供する。</p> <p>●3年生</p> <p>理解の進まない生徒に対して、個別の指導を適宜行っていく。また授業や実習内容の PDF ファイルをクラスルームに掲載して家庭学習が充実するようにする。実習では、実習の感想や改善点の提出をさせて理解度を確認する。班での作業を重視し、学び合い活動を意図的に行わせる。希望のある場合には、放課後等の時間で実習時間を提供する。</p>	

<p>技術家庭</p>	<p>【家庭分野】</p> <p>●1年生 生徒は意欲的に取り組んでいるが、学習内容がやや難しく、理解度に差が出やすい。また、調理実習の実施ができないため、実技の実施が難しい。</p> <p>●2年生 生徒は意欲的に取り組んでいるが、個々による技量の差がでやすい学習内容もあり、個別対応が必要。また、昨年度の調理実習の実施ができないため、実技の実施が難しい。</p> <p>●3年生 授業の内容はよく理解しているが、実生活に活かす機会が少ない。また実体験に偏りがある。学習内容が人生の中で実際に直面する時期が直近ではない内容が多いため、必要性をあまり感じられない傾向がある。</p>	<p>【家庭分野】</p> <p>●1年生 まとめテスト（評価外）を適宜行い、学習ポイントの確認と反復により学習内容の理解度を高められるよう支援する。また、実習の代案として、家庭での調理の実践を促す課題を設定する。</p> <p>●2年生 理解・実習作業の進まない生徒には、個別の指導を適宜行っていく。授業後の学習のふり返りの提出により、理解度を確認する。希望のある場合には、放課後等の時間で実習時間を提供する。また、調理実習の代案として、家庭での調理の実践を促す課題を設定する。</p> <p>●3年生 体験できないことは、理解を深められるようICT 機器を利用して視聴覚資料の提示を増やしたり、疑似体験できる教材を利用して、意識させることで、考える意欲を持たせたい。また、色々な人の感想や意見を聞くことにより、視野を広げられるよう伝え合う時間を設定する。</p>	
<p>外国語</p>	<p>【知識・技能】 ○定期考査や学力調査等の結果から、自分の意見や自ら知識を使って「書くこと」を苦手とする生徒が多い。また、長い文章を読み取ることに課題がある。品詞のはたらきや使い方に困難を抱える生徒も見られる。聴き取りにおいては、まとまった文章でも概要を捉えることは定着しているものの、文字と音の一致は引き続き取り組む必要がある。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○英問英答のコミュニケーション活動では質問は理解できるものの、正しい語順で表現できない生徒が多い。また、オープンエンドの質問に、臆してしまうことも課題である。</p>	<p>【知識・技能】 ○演習問題を繰り返し行い、短い文章から語順の定着を図る。数分をつなげてまとまった文章を書く力を養う。定期的に、自分自身のことや考えについて英文を作る取組を行う。教科書の文章を、読解形式で理解することで、長い文章を読み取る機会を多く設ける。フォニックスを継続して取り組み、英文を読む作業ではなく聴くことから英文に触れる活動から聴く力を養う。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○帯び活動やALTの時間を活用して、自分自身のことや自分の考えを、即興的に英文で聞いて英文で答える練習を積む。その際に質問を工夫し、答えの決まっていない質問にも自分の考えを表現できるようにする。また、導入の段階でも場面設定を身近なものや自然な設定になるように工夫することで、生徒の思考が働くように導く。ペアやグループでの言語活動を多くより入れ、発話の機会を多く設ける。</p>	

<p>外国語</p>	<p>【主体的に学びに向かう態度】 ○ALT との会話やスピーチ活動に積極的に取り組む生徒が多い。タブレット PC を活用した授業を各学年取り入れており、操作方法に個人差があるものの、意欲的に課題に取り組む生徒が多い。定期的な振り返り活動から、生徒個人の課題発見や自己調整に対する取り組みに意欲が低い生徒も見られる。</p>	<p>【主体的に学びに向かう態度】 ○ICT 機器を利用し視覚支援を行い、身近な表現として捉えられる様に導くことで、生徒にとって意味のある場面を設定する。異文化理解や日常生活に関することを述べる活動を行い、見方・考え方を働かせる。</p>	
------------	--	---	--